

平成 28 年 1 月 31 日開催

「吹田操車場遺跡・明和池遺跡発掘調査報告会」パネル展示

速報！四面廂建物の時期

JR 岸辺駅北側駅前広場隣接地の調査でみつかった建物の時期について

当センターでは昨年8月1日から、岸辺駅北側駅前広場の隣接地にて、吹田操車場遺跡の発掘調査を行っております。調査では奈良時代と平安時代の建物群がみつき、それらを皆様に公開すべく昨年12月5日に現地説明会を行いました(パネル1)。当日とくに注目されたのは、平安時代の

しめんびさしたても四面廂建物とそうぼしらたてもその北側に並ぶ総柱建物でした。この建物について、現地説明会後の調査で新しい発見があったため、この場を借りてご紹介いたします。

平安時代の四面廂建物とそうぼしらたてもその北側に並ぶ総柱建物については、現地説明会時に10世紀代の建物と紹介しておりました。その後、総柱建物に近接した土坑(パネル2)を調査したところ、そこから須恵器坏2点、土師器皿1点、土師器甕2点、土師器こしき甑1点が折り重なるように出土しました(パネル3)。これらの土器を検討した結果、いずれも8世紀末から9世紀初頭のものであることがわかりました。

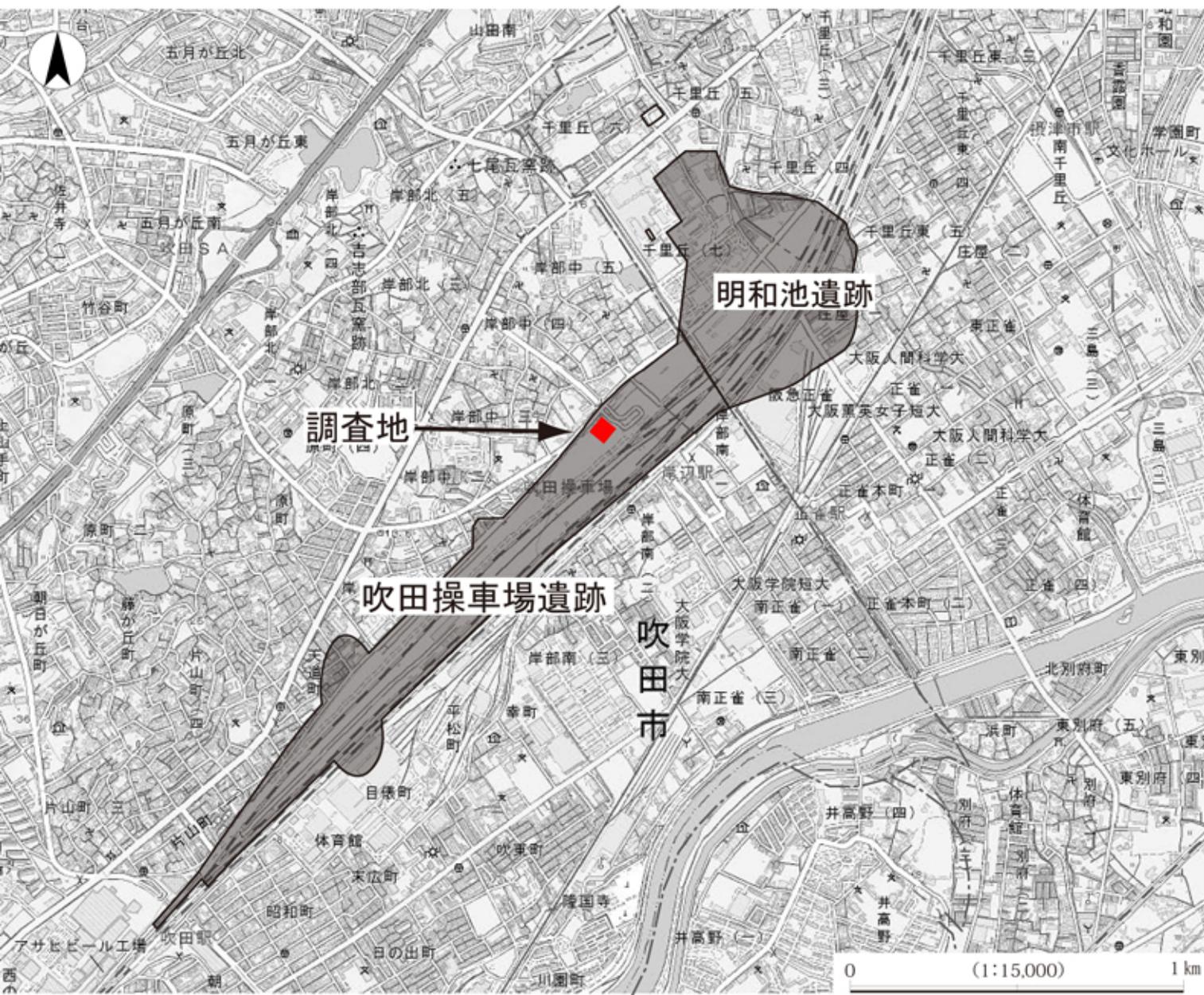
この土坑は総柱建物の南側柱を西に延長した場所に位置しており、建物を意識して掘られたものと考えられます。また土坑に埋まっていた土は、建物柱穴に埋まっていた土と極めて類似していたことから、柱穴と同じ時期、すなわち建物の建設時に掘られた可能性が高いといえます。

さらに、建物周辺からみつかったりよくゆう かいゆうとうき緑釉・灰釉陶器、はくじ輸入白磁の時期を再検討したところ、いずれも9世紀初頭から10世紀初頭のものであることもわかりました。これら的高级食器が使われた建物は、四面廂建物と総柱建物以外には考えにくく、土器の時期は建物が存続していた時期を表しているといえます。

上記のことから、四面廂建物と総柱建物は8世紀末から9世紀初頭
の間に建てられ、10世紀初頭まで存続していたといえます。

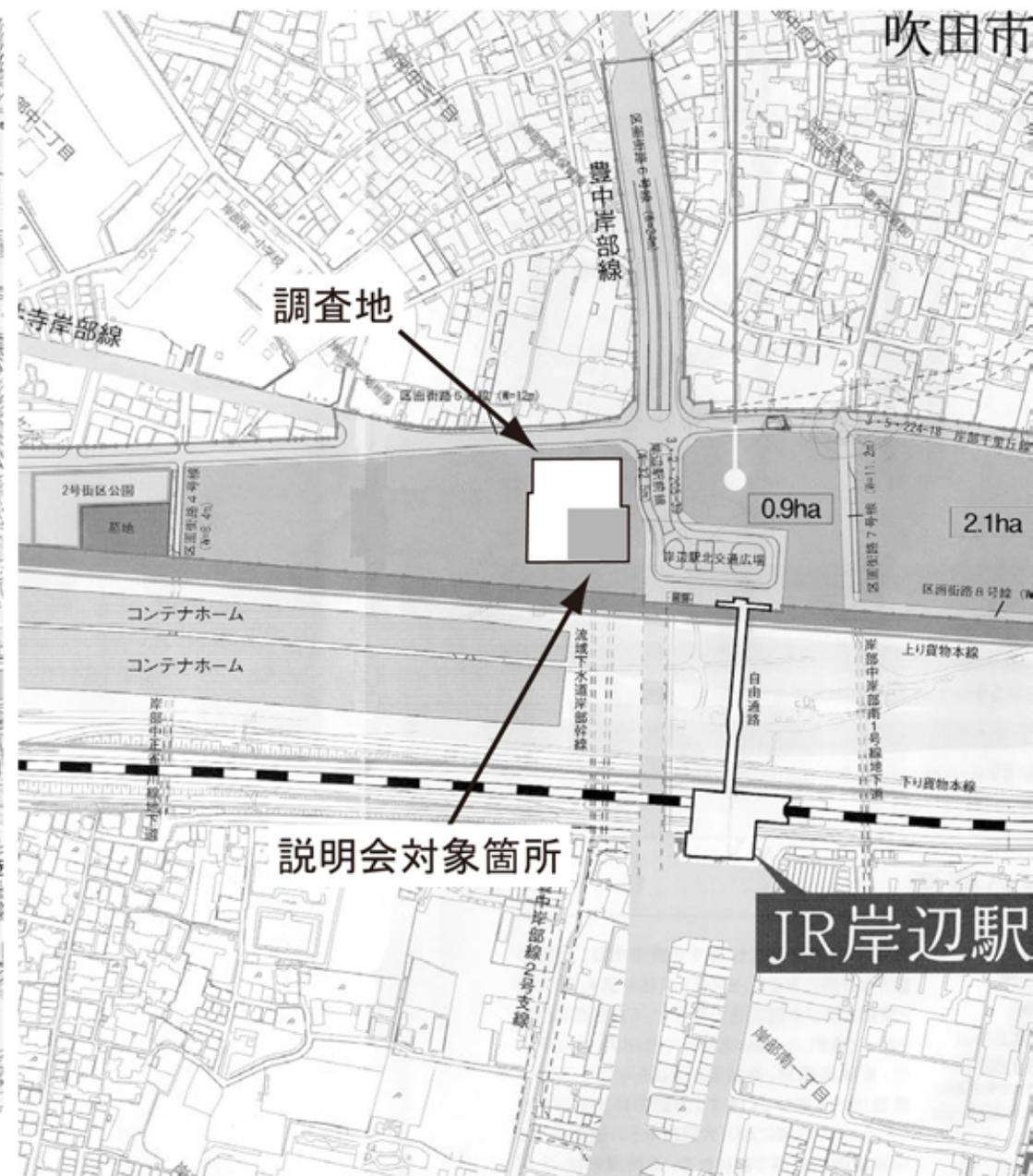
このように、四面廂建物と総柱建物の創建時期は、現地説明会当時の発表よりも100年以上遡ることがわかりました。

遺跡の位置



昨年 12 月 5 日に

現地説明会を行った場所



パネル2



そうばしらたてもの
総柱建物

しめんびさしたてもの
四面廂建物



土器群が出土した土坑

パネル3

土坑内土器出土状況





こしき
土師器甑



土師器甕



土師器皿



土師器甕



須恵器坏

